

横浜市立万騎が原中学校 学校だより



# 桐の花

令和6年

1月25日

校長 綿貫 芳人

横浜市旭区万騎が原 31 TEL 045-391-5514 FAX 045-391-5537

URL <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/jhs/makigahara/index.cfm>

今年もよろしくお願いいたします。

校長 綿貫 芳人

今年には元日に、悲しいニュースが目飛び込んで来て、新年をお祝いする雰囲気吹き飛ばすような年明けとなりました。石川県の能登半島を中心とした震災では、のんびりとお正月を過ごしている夕刻の時間が、被災者の方の言葉を借りると、「一瞬で地獄へ落された」状況となりました。また、海保の乗務員の方々が、物資を運ぶために被災地に向け飛び立とうとしていたところ事故に遭われ命を落とされました。本当に心が痛みます。被災された地域の方々に心よりお悔やみとお見舞いを申し上げます。

中学校では、1月9日に学校生活がスタートし、予定通りに全校のみんなが体育館に集まり、全校集会が行われました。私は生徒たちに、当たり前だと思っていた日常が、実は当たり前ではないこと、目の前の日常に改めて感謝して過ごしてほしいこと、を伝えました。

さて、唐突ですが、なぜ春になると、桜は咲くのでしょうか。気温の変化の激しい年でも、桜の開花は1週間とずれることはなく、一定時期になると咲き始めるといいます。これは、いったいどういう仕組みなのでしょう。どうやら、「暖かければ、花が咲く」という単純なことではないようです。

桜の花のつぼみは、前年の夏につくられています。しかし、秋の暖かい日に咲くこともなく、寒い冬を越します。そして、開花期が来れば、急につぼみを膨らませ始め、花が開く。この開花システムは、開花ホルモンが大きなカギになるそうです。開花ホルモンは一度、0度に近い低温の時を過ごし、その後、次第に気温が高くなり、日中20度近い気温になることでつくられます。こうして開花ホルモンが花のつぼみに届いて花が咲きます。

逆に言うと、桜の開花には、冬の寒さにじっと耐えて過ごすことが不可欠で、その時間がなければ、いくら暖かくなっても桜は開花しないのです。今は冬本番で、桜の木を眺めてもまったく開花の兆候すら見せない桜ですが、実はつぼみの中では着々と開花の準備をしているのです。

私たちの生活に置き換えてみると、4月に新しいステージで活躍するためには、今がとても大切な準備の時間になるのではないのでしょうか。私は、この時期によく京都に行ったり、まとめて読書をしたり、旧友と会ったりしています。いずれも新しい始まり(新しい年度)に向けて、私が大切にしていることです。なぜ大切にしているかということ、どれも自分自身をリセットしたり、改めて自分自身に向き合ったり、新しい学びの機会などを与えてくれるからです。

桜が今の寒さをじっと耐えているのと同じように、皆さんもこの時期に何かに頑張ってみるときっといいことがあると思います。もしかしたら桜のように満開とはいかないかもしれませんが、自分の身の丈に合った、自分らしい花が咲くことを願っています。